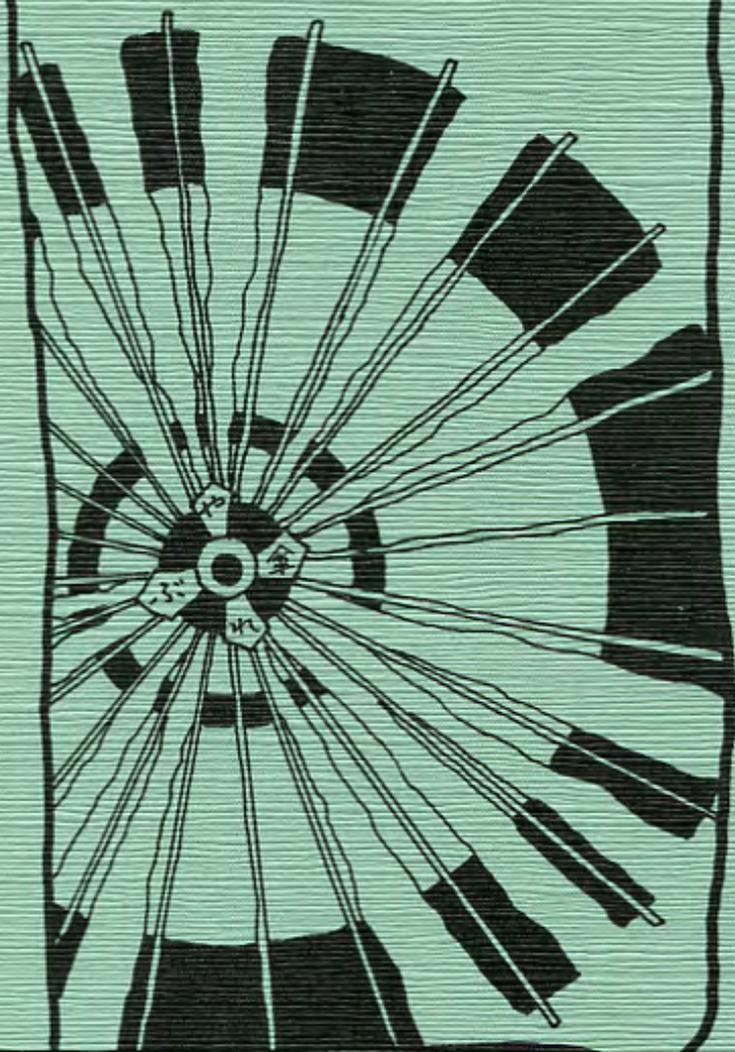


# やぶれ傘



七十号

二〇一三年二月

硝子戸のよく磨かれて初雀 根橋宏次

竹藪は十坪ほどにて冬の日 大島英昭

川土手に死因不明の狸の子 小川 滋

電球のあかりの届く海鼠の背 きくちきみえ

走り根は石畳まで酉の市 瀬島酒望

蠟梅や猛犬の札門柱に 廣瀬雅男

日は富士の裏へ移れり雪のあと 藤井美晴

ふところろに木魚の響山眠る 秋葉貞子

赤き実の枯鬼灯の網目より 丑久保 勲

落柿舎の冬日のなかに座して詠む 安藤久美子

薄き日の温みほのかに吊し柿 久世孝雄

ざくざくと霜柱踏み歩きけり 國保八江

雪原となりて磧の暮るる頃 渡邊孝彦

冬雲の大きく動き草に影 白石正躬

数へ日の寺に「開運」幟立つ 有賀昌子

抄 集 句 傘 れ ぶ や

選 夫 紀 崎 大

夜目凝らし白鳥数ふドナウ川 松村光典

賀状書き半ばのコーヒータイムかな 橋本美代

富士見えて畑一面の霜柱 山本千夏

プランターに育つ七草摘みにけり 秋元久子

山茶花に触れて不在の門を辞す 秋山英子

指先で窓拭く朝や初氷 秋山信行

寒肥のにはひ嗅ぐでもなく嗅いで 天野美登里

冴ゆる富士富士見通りのその先に 伊藤更正

栗の毬踏んで林を抜けにけり 大野芳久

木洩れ日のメガネに触れし小春かな 菊地葉子

神主の束と抱へし破魔矢かな 黒木東吾

七厘に煤けし葉缶飾売り 齋藤朋子

重ねたる鞆の上にコート置く 高橋 均

声だして本読む母子年暮るる 高柳正幸

ガラス張りの喫煙室や冬日さす 武田紀久

枯山水

丑久保勲

高橋に船の近づく小春かな  
赤き実の枯鬼灯の網目より  
触るるだけ満天星枯葉こぼれけり  
薔薇の実の七つ八つや陽を浴びて  
枯山水の波真新し石露の花  
たこ焼屋の横に手相見初詣  
庭苔の膨らんでゐる霜の朝  
一瞬の眠り車窓の冬日差  
車窓より雪見るうちに眠りけり  
電柱の根元に雪や数寄屋橋

指人形

安藤久美子

冬の日  
の暮れゆく坂の京菓子屋  
着ぶく  
れて三年坂に待合せ  
訪ね来て冬の祇園のおぼんざい  
落柿舎の冬日のなかに座して詠む  
枯蓮を風渡りけり岸に鳩  
数へ日の紅茶のレモン厚切りに  
手袋の指人形の話し出す  
初御空ヒマラヤ杉は大揺れに  
喰積や沈金の蓋開けてみる  
初売りの巳年の土鈴振れば鳴る

吊し柿

久世孝雄

うそ寒き夜の飯たく妻の留守  
薄き日の温みほのかに吊し柿  
橋脚に満水の跡冬の川  
すぐに日の翳る畑や冬菜屑  
新聞の三面記事や蜜柑むく  
おでん皿の端にたつぷり練芥子  
枕辺のラジオの時報去年今年  
万歩計の一万を越す初詣  
退院の副会長と賀詞交す  
ざわめきを包み込みゆく雪しきり

霜 柱

國保八江

括られて立つ白菜に日暮かな  
大回りして鳥居を潜る初詣  
仏壇の吾子の写真に初明り  
ことごとと小豆煮てゐる三日かな  
ざくざくと霜柱踏み歩きけり  
童子墓の並ぶ辺りを冬の蝶  
交番の机と椅子と冬灯  
日脚伸ぶ卓に揃ひのティーカップ  
読みさしの本に枯葉の葉かな  
コンビニハマフラール巻して一走り

雨の日

白石正躬

朴の葉に重なる朴の落葉かな  
朝月や土手をへだたてて鴨の声  
渡船待っ尻に冷たき休み石  
釣り竿の並ぶ川岸冬ざるる  
雨の日は雨を聴き入る十二月  
紙垂ゆるる山の社へ初参り  
枯深む山にぶつかるバイク音  
裸木のそろはぬ梢をめでにけり  
大寒の山を下りくる鈴の音  
冬雲の大きく動き草に影

三角州

渡邊孝彦

踏切の中で警報つはの花  
朝時雨鳥居の紙垂の真新し  
冬の昼餌場に寝入るカンガル  
落葉積む檻に丹頂鶴つがひ  
雨雲や枯れきつてゐる三角州  
賀状書く地番の前の甲の文字  
磴ゆくや冬木をうつる栗鼠のかげ  
ゆつくりと往く旅客機や寒夕焼  
日の暮の残る明かりや寒椿  
雪原となりて磧の暮るる頃

幟立つ

有賀昌子

風紋を踏みゆく砂丘いわし雲  
袋ごともぐ大房の巨峰かな  
朝寒のうぐひす廊下鳴きにけり  
短日の弥彦山から下りけり  
一葉忌日比谷でカレー食ふ小春  
木洩れ日は銀杏黄葉のあはひより  
風花の日当たりながら消えにけり  
数へ日の寺に「開運」幟立つ  
実篤の色紙いろ褪せのつぺい汁  
書初はかなと漢字で「とね川」と

雪靴

松村光典

ちりちりと雪降りしきる降りしきる  
窓開けて腕を延ばして雪掴む  
頑丈な雪靴を履きカフエまで  
雪景色愛でつつ運ぶビールかな  
日を受けて生るる氷柱のひかりかな  
夜目凝らし白鳥数ふドナウ川  
冬ざれの川面白鳥は点るごと  
息白く犬は初日に吠えてをり  
ようやくに晴れたる夜空冬の月  
セルビアの満月拝み一月尽

氷川神社の池面を埋める枯葉かな  
 参道に裸木の夕空広し  
 賀状書き半ばのコーヒータムかな  
 さばかりる鯉を見てゐる年の市  
 予測せる誰彼の来る二日かな  
 陽の匂ひする夜具に寝る寒の入り  
 雪道を褰高く取り晴れ着の子

橋本美代

松飾り俄かづくりの露店にて  
 除夜に響くテーマークの花火かな  
 カーテンの隙から覗く初明り  
 丹沢の山越しに富士初景色  
 初雪を屋根根に戴く祠かな  
 左手に鞆右手に雪の傘  
 雪積もる墓に法事の焼香す

濱野新

## ◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
3月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	23日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
4月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	横浜・三溪園	丑久保 勲
	24日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	27日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣 瀬 雅 男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

3月29日(第5金曜)は1月のNHK教室の振り替え。

4月21日(日)の吟行。集合は10時。JR根岸駅(横浜)改札口。

吟行地は三溪園。句会場は神奈川近代文学館。和室。

◎ 連絡先 瀬 島 孟 ☎ 048-862-2757 藤 井 美 晴 ☎ 0422-55-2733  
 大 島 英 昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870  
 廣 瀬 雅 男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565  
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ